令和５年度決算

富士市議会事業評価

令和６年１０月１１日

富 士 市 議 会

令和５年度決算　富士市議会事業評価

No.	1	２－１－６－３－１
		移住定住推進事業費

評　価		評価に至った理由
B		国の施策、補助金に基づきながらも、富士市独自の施策の上乗せにより、移住者が着実に増えていること、また、１人当たりのコストと市税収入の比較では、移住者１人当たりの市税収入が上回っていることなど、一定の成果を上げており評価できる点もある。しかしながら、若年層の人口流出には対応できておらず、移住前後の不安の解消や希望の実現に向けた取組みも十分とはいえない状況にあること、また、こうした課題に対処し、施策の有効性をはかる上で必要な移住者に対する追跡調査やアンケートはこれまで実施できていない。
A	十分評価できる	
B	**やや評価できる**	
C	あまり評価できない	
D	全く評価できない	

今後の方向性		今後の取り組み方及び翌年度予算への提言
3		対象とすべきターゲットを明確に打ち出し、その層に響く施策の推進が必要である。特に、大学進学や就職によって市外へ流出する層をＵターンへ向かわせるためには、中学生・高校生世代及びその保護者に対する意識づけが必要である。このため、富士市移住定住戦略実行会議に教育委員会を加えることを提案する。また、今後実施していくアンケート調査を施策展開に生かしていくことを期待する。 本事業の推進とあわせて地域づくりの担い手となる関係人口の創出・拡大にも注力すべきと考える。
1	拡充する	
2	継続する	
3	**改善し継続**	
4	大幅な見直し	達成までの期間
5	縮小・廃止を検討	翌年度

No.	2	７－１－６－２－１
		交流観光振興事業費 （ＦＵＪＩ＆ＳＵＮ’23開催負担金）

評　価		評価に至った理由
C		民間事業者主体で開催され、全国から多くの方が本市を訪れていることは評価できるが、来場者による市内での回遊・消費などの経済効果等を考えると、開催負担金300万円のほか、会場の借用・減免手続、警察や消防への申請仲介等、様々な協力に見合う成果が上がっているとは言い難い。 事業者が試算した約５億8000万円の広告宣伝効果は、映像の全国配信等を理由としているが、本市が大きく取り上げられているわけでもないため、本市にとってのメリットはそれほど大きなものとは認められない。 負担金の金額は令和元年のイベント開始時から変わっていないが、その根拠については不明確なままである。また、会場の富士山こどもの国を所管する県にも大きく関係する事業でありながら、本市のみが負担金を支払うことも課題である。
A	十分評価できる	
B	やや評価できる	
C	**あまり評価できない**	
D	全く評価できない	

今後の方向性		今後の取り組み方及び翌年度予算への提言
5		支出が伴わない形での協力は継続しつつも、民間事業者の営利事業であることから、開催負担金については廃止に向け検討すべきである。 注力すべきは、本市で開催される希少なイベントを好機として生かすことだと考えるので、将来の展望や目標等を明確にし、会場内で本市をＰＲできる飲食店等の出店誘致や、並行して楽しめるサブイベントの開催、また参加者を市内に誘導できる仕組みづくり等を検討してほしい。さらに、県に対し、より一層の協力を要請することも必要と考える。
1	拡充する	
2	継続する	
3	改善し継続	
4	大幅な見直し	達成までの期間
5	**縮小・廃止を検討**	翌年度

令和５年度決算　富士市議会事業評価

No.	3	７－１－６－３－２
		富士山百景推進事業費

評　価		評価に至った理由
B		「市内どこからでも富士山を見ることができるまち富士市」のＰＲを目的とした本事業は、平成17年度から継続しており、誘客や認知度向上などに一定の成果を感じられる。また、約20年の間に魅力ある多くの富士山の写真がストックされ、それらが市民や企業へ貸し出されていることや、市民暮らしのカレンダーとして全戸配付されていることは、市民に親しまれている事業として評価できる。 しかしながら、応募点数の増加に対し応募者数の増加が少ないことや、写真コンテストと富士山ビューポイントとの関連性が分かりづらく、観光交流や経済効果に結びつける取組としては不十分と考える。
A	十分評価できる	
B	**やや評価できる**	
C	あまり評価できない	
D	全く評価できない	

今後の方向性		今後の取り組み方及び翌年度予算への提言
4		写真コンテストについては、誰もが気軽に参加できるよう、スマートフォンから応募できることを広く周知することや、ＳＮＳ等を活用して市民が審査に参加できる仕組みを構築し、市全体を巻き込んで富士山の魅力を創出できる取組とすべきである。富士山ビューポイントについては、富士山百景エリアにこだわらず、新たなビューポイントの整理を行い、市内の回遊性を高める取組を求める。 市民、観光客双方にとって魅力的で効果のある事業として、これまでの写真ストックを活用するなどした具体的な事業計画を立案し、さらなる展開を図ることを期待する。
1	拡充する	
2	継続する	
3	改善し継続	
4	**大幅な見直し**	達成までの期間
5	縮小・廃止を検討	翌年度

No.	4	８－６－２－３－１
		公園愛護会費

評　価		評価に至った理由
B		公園愛護会は、地域交流や防災機能を有する公園を地域住民が管理することで、公園や地域への愛着の形成を図るとともに、公園の維持管理費の削減にも寄与する重要な団体であり、令和５年度において解散した団体がある一方で新規結成した団体があることについては評価できる。 しかしながら、公園愛護会のある公園の割合は減少しており、地域の高齢化が進む中、解散する団体の増加を防ぐための取組が急務だが、市による積極的なＰＲ活動や支援が十分ではないと考える。
A	十分評価できる	
B	**やや評価できる**	
C	あまり評価できない	
D	全く評価できない	

今後の方向性		今後の取り組み方及び翌年度予算への提言
1		年間約1000万円もの公園維持管理費の低減に寄与する公園愛護会が、持続可能な体制を構築し、団体数を増やしてさらなる経費削減が図られるよう、市は地域と協力しながら積極的に支援することが必要である。デジタル化を進め報奨金を申請する手続の簡略化や、活動内容に応じた報奨金の増額などのほか、成功事例や活動事例などを分析して効率的な周知、啓発を行い、若い住民やＮＰＯ団体、企業、福祉団体、就労支援団体等の参加の促進に加え、公園を利用するスポーツ団体等とも連携することで、新たな担い手を確保し、より充実した活動及び公園愛護会の新規結成を促すことを求める。
1	**拡充する**	
2	継続する	
3	改善し継続	
4	大幅な見直し	達成までの期間
5	縮小・廃止を検討	５年